

農業技術 ブリズム

近年、輸入飼料や肥料などの価格が高騰し、高品質自給飼料の重要性が高まっています。長崎県内では冬作中心の栽培体系が一般的ですが、高品質飼料の安定確保のために夏作も重要です。

一方、暖地型イネ科牧草は出穂期を過ぎると粗タンパク質(CP)含量の低下が著しく、収穫適期が短いことが知られています。

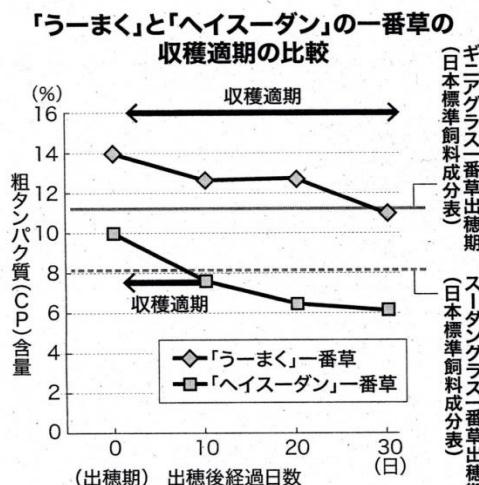
そこで、九州本島では出穂しない特性を持つ極晩生ギニアグラス「うーまく」について、県内で普及しているスティンググラス「ヘイスーダン」と比較して、CP含量に着目した収穫適期幅を検討しました。

同日に播種(はしゅ)し、「ヘイスーダン」の出穂期を基準日として10日間隔でCP含量を調査した。結果、「ヘイスーダン」のCP含量は、基準日では日本標準飼料成分

表の数値以上でしたが、10日目以降は成分表の数値を下回りました。(収穫適期は10日間未満)。

これに対し、「うーまく」のCP含量は、基準日から30日目までは成分表の数値以上か同程度で推移したことから、「うーまく」を活用することにより、収穫適期を30日間程度に延長できることが分かりました。(この研究は革新的技術開発・緊急展開事業により実施しました)

(長崎県農林技術開発センター 畜産研究部門 大家畜研究室 主任研究員 緒方剛)



夏作で飼料品質確保

極晩生ギニアグラス 収穫適期30日程度に

表の数値以上でしたが、10日目以降は成分表の数値を下回りました。(収穫適期は10日間未満)。

これに対し、「うーまく」のCP含量は、基準日から30日目までは成分表の数値以上か同程度で推移したことから、「うーまく」を活用することにより、収穫適期を30日間程度に延長できることができました。(この研究は革新的技術開発・緊急展開事業により実施しました)

(長崎県農林技術開発センター 畜産研究部門 大家畜研究室 主任研究員 緒方剛)